

「やきもの」① ぴかぴか つるつる ざらざら どんな器かな？

※本プログラムは授業の組み立ての参考にさせていただいたための1例です。

授業の目的

- ・やきものを手にとって鑑賞し、その味わいを知る。
- ・実際に発掘された陶片の元の形を想像することで、「やきもの」への興味・関心を高める。

授業の内容

用意するもの 先生：やきものボックス、ワークシート（A4の白紙）
 児童：筆記用具、ボード

時間45分	授業の展開（班で活動）	学習指導要領の教科の目標（全学年共通）と指導上の配慮事項	
5分	<p>身近なやきものについてイメージする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふだん使っているやきものにはどんなものがあるか、色や形などを聞く。 	<p>知識及び技能に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手にとって鑑賞することで、やきもの造形的な特徴を自分の感覚や行為を通して理解する。 	 
10分	<p>やきものを鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに陶片を配布。発掘された昔のやきものであることを話す。 <p>活動 陶片を触ったりしてよく観察し、色や手触り、模様など特徴を話し合う。</p>	<p>思考力、判断力、表現力等に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞を通して作品に対する自分の見方や感じ方を深める。 ・元の形を想像して描くことで形や模様などの造形的な表現について考え、創造的に発想や構想をする。 	
20分	<p>陶片の元の形を想像して描く</p> <p>活動 用途なども考えながら、形や模様を想像してワークシートに描く。班ごとに発表。</p>	<p>学びに向かう力、人間性等に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しく、主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組む。 	
5分	<p>陶片の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作られた時代や場所を説明する。 <p>（※説明シートがあります）</p>	<p>関連する配慮事項</p> <p>9) 作品の特徴について感じたことや思ったことを話し合うなどし、言語活動の充実を図る。</p> <p>11) 美術作品の創造性を大切にする態度を養う。</p>	
5分	<p>振り返りとまとめ</p>		

ボックスの内容

陶磁器4種：初期伊万里染付の皿（複製）3点・絵唐津の向付（複製）5点・現川焼の鉢1点・色絵の鉢3点
 古い陶片16点：伊万里、高取焼、タイなどの陶片／陶石、粘土
 やきもの説明シート

その他の利用例

◎創作活動との組み合わせ

やきものを鑑賞 → 作品の造形的な特徴を話し合う → 粘土等で作品の制作

※作品制作の前に鑑賞活動を通して自分のイメージを膨らませ、その後の創作活動につなげることができます。

◎「やきもの」②との組み合わせ（90分の授業）

やきものを鑑賞 → 素材に触れる → 発掘された古い陶片を鑑賞 → 陶片の元の形を想像して描く

※やきもの素材や技法を知って、身近なやきものへの関心を高める学習ができます。

「やきもの」② 何からできてるの？やきものについて知ろう

※本プログラムは授業の組み立ての参考にさせていただいたための1例です。

授業の目的

- ・やきものを手にとって鑑賞し、その味わいを知る。
- ・やきものの素材や技法を知って、身近な「やきもの」への関心を高める。

授業の内容

用意するもの やきものボックス

時間45分	授業の展開 (班で活動)	学習指導要領の教科の目標 (全学年共通) と指導上の配慮事項
5分	<p>身近なやきものについてイメージする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふだん使っているやきものにはどんなものがあるか、色や形などを聞く。 	<p>知識及び技能に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やきものに触れて鑑賞したり、素材を知ることで、やきものの造形的な特徴を自分の感覚や行為を通して理解する。
25分	<p>九州のやきものを鑑賞する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期伊万里のお皿や色絵の鉢（磁器）と古唐津の向付（陶器）を各班（4～5班）に配布。※持ち方も指導する。（持ち方は美術館でレクチャーします） <p>活動 色、形、質感など、それぞれの特徴について気づいたことを班で話し合い、発表。</p>	<p>思考力、判断力、表現力等に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞を通して九州のやきもののよさや美しさなどについて考え、作品に対する自分の見方や感じ方を深める。 <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しく、主体的に鑑賞する活動に取り組む。
10分	<p>やきものの素材や技法を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陶器と磁器の違いを説明。（※説明シートがあります） <p>活動 陶磁器の素材となる陶石や粘土に触れて観察する。</p>	<p>関連する配慮事項</p> <p>9) 作品の特徴について感じたことや思ったことを話し合うなどし、言語活動の充実を図る。</p> <p>11) 作品鑑賞を通して、美術作品の創造性を大切にする態度を養う。</p>
5分	<p>振り返りとまとめ</p>	



ボックスの内容

陶磁器4種：初期伊万里染付の皿（複製）3点・絵唐津の向付（複製）5点・現川焼の鉢1点・色絵の鉢3点
 古い陶片16点：伊万里、高取焼、タイなどの陶片／陶石、粘土
 やきものの説明シート

その他の利用例

◎創作活動との組み合わせ

やきものを鑑賞 → 作品の造形的な特徴を話し合う → 粘土等で作品の制作

※作品制作の前に鑑賞活動を通して自分のイメージを膨らませ、その後の創作活動につなげることができます。

◎調べ学習に利用（体験学習など）

九州のやきものを鑑賞 → 作品の特徴を話し合う → 九州のやきものについて調べる → 発表

※身近な地域のやきものに触れることで、地域の伝統工芸や生活の中の美術への関心を高める授業ができます。

※本プログラムは授業の組み立ての参考にさせていただいたための1例です。

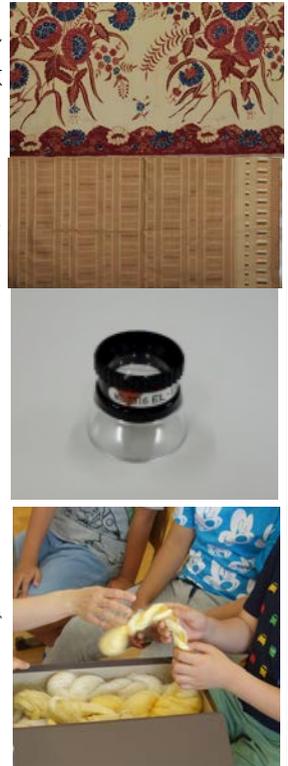
授業の目的

- ・布の作品を手にとって鑑賞し、その味わいを知る。
- ・素材や技法に触れることで、身近な布に関心を持つ。

授業の内容

用意するもの 染め・織りものボックス、鏡（あれば）、ワークシート

時間45分	授業の展開	学習指導要領の教科の目標（全学年共通）と指導上の配慮事項
5分	<p>身近な布をイメージする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなものがあるかを聞く。 	<p>知識及び技能に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品に触って鑑賞したり、素材に触れることで、染め織りものの造形的な特徴を自分の感覚や行為を通して理解する。 <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞を通して、作品のよさや美しさなどについて考え、染め織りものに対する自分の見方や感じ方を深める。 <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しく、主体的に鑑賞する活動に取り組む。 <p>関連する配慮事項</p> <p>9)作品について感じたことや思ったことなどを発言し合ったり、ワークシートに書いて言葉で整理するなど言語活動の充実を図る。</p> <p>11)美術館の所蔵品に関連した布を鑑賞し、美術作品の創造性を大切にする態度を養う。</p>
10分	<p>布に触れて鑑賞</p> <p>活動 ラオスの布（絹）とインドネシアのバティック（綿布）を鑑賞。手触りや柄など比べて気づいたこと、違いなどを話し合う。</p>	
5分	<p>布を単眼鏡で観察</p> <p>活動 自分の服や鑑賞した布を観察。布がどんなふうになっているかに注目。</p>	
20分	<p>布の素材に触れる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラオスの布（絹・織物）やバティック（綿・染物）の素材や作り方の違いを説明。（※説明シートがあります） <p>活動 糸や染料に触れて観察。感じた事やわかったことをワークシートに書き、発表。</p>	
5分	<p>振り返りとまとめ</p>	



ボックスの内容

インドネシアの更紗1点、ラオスの絹織物10点、カンガ41点、絹糸、蚕の繭、綿、綿糸、染色された絹糸10種、染料の素材5種、単眼鏡40個、カンガを紹介するパネル5枚、内容物、染め織りものの説明シート

その他の利用例

◎「染め織りもの」③との組み合わせ（90分授業）

布を鑑賞 → 布の観察 → 素材に触れる → アフリカの布カンガの鑑賞 → カンガを着てファッションショー

※布の作品とその素材に触れて染織への興味を持つとともに、カンガを着る活動を通して外国の文化への関心を高める学習ができます。

◎調べ学習に利用（体験学習など）

アジア・アフリカの布を鑑賞 → 素材に触れる → 地域や外国の染織について調べる → 発表

※布の作品とその素材に触れて染織への興味を持つとともに、地域や外国の文化への関心につながる授業ができます。

※本プログラムは授業の組み立ての参考にさせていただいたための1例です。

授業の目的

- ・布を手にとって鑑賞し、その味わいを知る。 ・外国の文化に関心を持つ。
- ・グループでオリジナルの着方を考えることで、協力し合って創造・表現する楽しさを体験する。

授業の内容

用意するもの 染め・織りものボックス、鏡

時間45分	授業の展開（班で活動）	学習指導要領の教科の目標（全学年共通）と指導上の配慮事項	
5分	アフリカについてイメージする ・アフリカについて知っていること、イメージすることを聞く。	知識及び技能に関する目標 ・鑑賞や布をまとう体験から、カンガの造形的な特徴について自分の感覚や行為を通して理解する。	  
5分	カンガを鑑賞 ・カンガについて説明する。 （※説明シートがあります） 活動 カンガを選ぶ。自分のカンガの色や模様注目。	思考力、判断力、表現力等に関する目標 ・鑑賞を通してカンガのよさや美しさなどについて考え、自分の見方や感じ方を深める。	
10分	カンガの着方を体験 ・着方を紹介。（着方は美術館でレクチャーします） 活動 現地のいろいろな着方を試してみる。	・着方を考えることで、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をする。	
20分	オリジナルの着方を考えてファッションショー 活動 班でモデルになる人を決め、みんなでオリジナルの着方を考える。工夫したところ、アピールポイントを発表。	学びに向かう力、人間性等に関する目標 ・海外の服飾文化に触れ、着方を考えることで、主体的に表現に取り組み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。	
5分	振り返りとまとめ	関連する配慮事項 5) 班活動を通して、互いのよさや個性などを認め尊重し合うようにする。	

ボックスの内容

インドネシアの更紗1点、ラオスの絹織物10点、カンガ41枚、絹糸、蚕の繭、綿、綿糸、染色された絹糸10種、染料の素材5種、単眼鏡40個、染め織りものの説明シート、カンガを紹介するパネル5枚、カンガの説明シート

その他の利用例

◎調べ学習に利用（体験学習など）

アジア・アフリカの布を鑑賞 → 素材に触れる → 自分の地域や外国の織物について調べる → 発表

※素材に触れて鑑賞することで、染織への興味を持つとともに、地域や外国の文化への関心につながる授業ができます。

◎「染め・織りもの」①と組み合わせる（90分の授業）

布を鑑賞 → 布の観察 → 素材に触れる → カンガの鑑賞 → カンガを着てファッションショー

「絵画」① 見て、話して、楽しむ絵の世界（油彩画）～シャガール《空飛ぶアトラージュ》

※本プログラムは授業の組み立ての参考にさせていただいたための1例です。

授業の目的

- ・ 絵画作品を鑑賞し、作品に対する自分の意見や想像を言葉にして、児童同士で分かち合うことで、作品の多面的な見方を習得し、鑑賞の楽しさ、おもしろさを知る。
- ・ 福岡市美術館に実物があることを知ることで、美術や美術館に関心を持ってもらう。

授業の内容

用意するもの 先生：「絵画・彫刻ボックス シャガール」、作品の一部が印刷されたワークシート（人数分）
 児童：筆記用具、色鉛筆（あれば）

時間45分	授業の展開	学習指導要領の教科の目標（全学年共通）と指導上の配慮事項	
5分	<p>美術館や作品についてイメージする</p> <p>・ 美術館はどこなところか、美術館にはどんな作品があるかなど聞く。</p>	<p>思考力、判断力、表現力等に関する目標</p> <p>・ 鑑賞を通して、作品の造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、作品に対する自分の見方や感じ方を深める。</p> <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標</p> <p>・ 対話型鑑賞を通して、楽しく、主体的に鑑賞する活動に取り組む。</p> <p>関連する配慮事項</p> <p>5) お互いの発言を共有することで、互いのよさや個性などを認め尊重し合うようにする。 9) 感じたことや想像したことを話したり、聞いたりすることで、言語活動の充実を図る。 11) 鑑賞を通して、美術作品の創造性を大切にすることを養う。</p>	 
15分	<p>作品の続きを想像して描く</p> <p>活動 ワークシートにある作品の一部から絵を想像して描く。どんなことを想像して描いたか発表する。</p>		
15分	<p>作品を鑑賞する（対話型鑑賞）</p> <p>活動 発見・想像したことをみんなで共有しながら話し合う。</p>		
5分	<p>作品について知る</p> <p>・ 児童の発言をふまえ、作家や作品について説明する。（※説明シートがあります）</p>		
5分	<p>振り返りとまとめ</p>		

ボックスの内容

マルク・シャガール《空飛ぶアトラージュ》（複製）、作品を展示する台座、作品の説明シート、ワークシート原本

その他の利用例

◎美術館利用の事前授業に

対話型鑑賞 → 美術館でスクールツアー

※事前に所蔵品（複製）の鑑賞をすることで、美術館での作品鑑賞がより楽しく、深いものになります。

◎国語の授業で

対話型鑑賞 → 感じたこと、発見したことなどをメモ → 作品の紹介文を書く → 発表

※作品鑑賞で自分の見方や感じ方を言葉に表したり、それを伝えるために文章を組み立てたりする学習ができます。

「絵画」② 見て、話して、楽しむ絵の世界（屏風）～《韃靼人狩猟図屏風》

※本プログラムは授業の組み立ての参考にさせていただいたための1例です。

授業の目的

- ・ 絵画作品を鑑賞し、作品に対する自分の意見や想像を言葉にして、児童同士で分かち合うことで、作品の多面的な見方を習得し、鑑賞の楽しさ、おもしろさを知る。
- ・ 福岡市美術館に実物があることを知ることで、美術や美術館に関心を持ってもらう。

授業の内容

用意するもの 先生：「絵画ボックス 韃靼人狩猟図屏風」、作品の一部が印刷されたワークシート（人数分）
 児童：筆記用具、色鉛筆

時間45分	授業の展開	学習指導要領の教科の目標（全学年共通）と指導上の配慮事項	
5分	<p>美術館や作品についてイメージする</p> <p>・ 美術館はどんなところか、美術館にどんな作品があるかなど聞く。</p>	<p>思考力、判断力、表現力等に関する目標</p> <p>・ 鑑賞を通して、作品の造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、作品に対する自分の見方や感じ方を深める。</p>	
15分	<p>作品の続きを想像して描く</p> <p>活動 ワークシートに絵を想像して描く。どんなことを想像して描いたか発表する。</p>	<p>学びに向かう力、人間性等に関する目標</p> <p>・ 対話型鑑賞を通して、楽しく、主体的に鑑賞する活動に取り組む。</p>	
15分	<p>作品を鑑賞する（対話型鑑賞）</p> <p>活動 発見・想像したことをみんなで共有しながら話し合う。</p>	<p>関連する配慮事項</p> <p>5) お互いの発言を共有することで、互いのよさや個性などを認め尊重し合うようにする。 9) 感じたことや想像したことを話したり、聞いたりすることで、言語活動の充実を図る。 11) 作品鑑賞を通して、美術作品の創造性を大切に育てる態度を養う。</p>	
5分	<p>作品について知る</p> <p>・ 児童の発言をふまえ、作品について説明する。（※説明シートがあります）</p>		
5分	<p>振り返りとまとめ</p>		

ボックスの内容

長谷川派《韃靼人狩猟図屏風》（江戸時代）（複製）、毛せん2枚、作品の説明シート、ワークシート原本

その他の利用例

◎美術館利用の事前授業に

対話型鑑賞 → 美術館でスクールツアー

※事前に所蔵品の複製を鑑賞することで、美術館での作品鑑賞がより楽しく、深いものになります。

◎国語の授業で

対話型鑑賞 → 感じたこと、発見したことなどをメモ → 作品の紹介文を書く → 発表

※作品鑑賞で自分の見方や感じ方を言葉に表したり、それを伝えるために文章を組み立てたりする学習ができます。

※本プログラムは授業の組み立ての参考にさせていただいたための1例です。

授業の目的

- ・ 絵画作品を鑑賞し、作品に対する自分の意見や想像を言葉にして、児童同士で分かち合うことで、作品の多面的な見方を習得し、鑑賞の楽しさ、おもしろさを知る。
- ・ 作品に使われた素材や技法を知ること、より作品の見方を深め、作品鑑賞への興味を広げる。

授業の内容

用意するもの 「絵画ボックス シャガール」、「素材と技法ボックス 油彩画」

時間45分	授業の展開	学習指導要領の教科の目標（全学年共通）と指導上の配慮事項	
5分	美術館や作品についてイメージする ・美術館はどこなところか、美術館にはどんな作品があるかなど聞く。	思考力、判断力、表現力等に関する目標 ・鑑賞を通して、作品の造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、作品に対する自分の見方や感じ方を深める。 知識及び技能に関する目標 ・描かれた素材や技法に触れることで、作品がどのように描かれているかなど自分の感覚や行為を通して理解する。	
15分	作品を鑑賞する（対話型鑑賞） 活動 発見・想像したことをみんなで共有しながら話し合う。		
5分	作品について知る ・児童の発言をふまえ、作家や作品について話をする。（※説明シートがあります）		
15分	油彩画の素材や道具に触れる （※素材や道具の説明シートがあります） 活動 手に取って観察したり、使い方を想像してみる。	学びに向かう力、人間性等に関する目標 ・対話型鑑賞や道具などに触れる体験を通し、楽しく、主体的に活動に取り組むことができる。 関連する配慮事項 5) お互いの発言を共有することで、互いのよさや個性などを認め尊重し合うようにする。 9) 感じたことや想像したことを話し合うことで、言語活動の充実を図る。 11) 作品鑑賞を通して、美術作品の創造性を大切にすることを養う。	
	油彩画のいろいろな描き方を知る （※技法見本の説明シートがあります） 活動 技法見本を手に取ってよく観察し、どうやって描いたかなど、気づいたことを話し合う。		
5分	振り返りとまとめ		

ボックスの内容

絵画：マルク・シャガール《空飛ぶアトラージュ》（油彩・画布／1945年）、作品を展示する台座、作品の解説シート
 素材と技法（油彩画）：油絵具、顔料、媒材7種、ラピスラズリ、筆16種、ペインティングナイフ、パレット、技法見本8種、内容物の説明シート

その他の利用例

◎創作活動との組み合わせ（「素材と技法」③を参照）

素材や道具に触れる → 技法見本を見て描き方を想像する → 見本の描き方を試す

※絵を描く道具や表現にはさまざまな技法があることを学び、自分の表現の広がりへとつなげる授業ができます。

作品鑑賞とあわせて、90分の授業にもできます。

※本プログラムは授業の組み立ての参考にさせていただいたための1例です。

授業の目的

絵画作品を鑑賞し、作品に対する自分の意見や想像を言葉にして、児童同士で分かち合うことで、作品の多面的な見方を習得し、鑑賞の楽しさ、おもしろさを知る。

- ・作品に使われた素材や技法を知ること、より作品の見方を深め、作品鑑賞への興味を広げる。

授業の内容

用意するもの 「絵画ボックス 屏風」、「素材と技法ボックス 日本画」

時間45分	授業の展開	学習指導要領の教科の目標（全学年共通）と指導上の配慮事項	
5分	美術館や作品についてイメージする ・美術館はどんなところか、美術館にはどんな作品があるかなど聞く。	思考力、判断力、表現力等に関する目標 ・鑑賞を通して、作品の造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、作品に対する自分の見方や感じ方を深める。 知識及び技能に関する目標 ・描かれた素材や技法に触れることで、作品がどのように描かれているかなど自分の感覚や行為を通して理解する。	
15分	作品を鑑賞する（対話型鑑賞） 活動 発見・想像したことをみんなで共有しながら話し合う。		
5分	作品について知る ・児童の発言をふまえ、作品について説明する。（※解説シートがあります）		
15分	日本画の素材や道具に触れる （※素材や道具の説明シートがあります） 活動 手に取って観察したり、使い方を想像してみる。 日本画のいろいろな描き方を知る （※技法見本の説明シートがあります） 活動 技法見本を手に取ってよく観察し、どうやって描いたかなど、気づいたことを話し合う。	学びに向かう力、人間性等に関する目標 ・対話型鑑賞や道具などに触れる体験を通し、楽しく、主体的に活動に取り組むことができる。 関連する配慮事項 5) お互いの発言を共有することで、互いのよさや個性などを認め尊重し合うようにする。 9) 感じたことや想像したことを話したり、聞いたりすることで、言語活動の充実を図る。 11) 作品鑑賞を通して、美術作品の創造性を大切にする態度を養う。	 
5分	振り返りとまとめ		

ボックスの内容

絵画：長谷川派《韃靼人狩猟図屏風》（江戸時代）、毛せん2枚、作品の解説シート

素材と技法（日本画）：岩絵具、水干絵具、胡粉、にかわ、墨、朱墨、金箔、金泥、藍銅鉱、孔雀石、砂子筒、筆8種、硯、箔ばさみ、たたき筆、技法見本9種、内容物の説明シート

その他の利用例

◎創作活動との組み合わせ（「素材と技法」③を参照）

素材や道具に触れる → 技法見本を見て描き方を想像する → 見本の描き方を試す

※絵を描く道具や表現にはさまざまな技法があることを学び、自分の表現の広がりへとつなげる授業ができます。

作品鑑賞とあわせて、90分の授業にもできます。

「素材と技法」③ ぽたぽた、ぐるぐる、ふーふー 描きかたいろいろ

※本プログラムは授業の組み立ての参考にさせていただいたための1例です。

授業の目的

- ・普段使っている水彩画や色鉛筆だけでなく、油彩画や日本画といったさまざまな画材があることを知る。
- ・1つの画材でも、さまざまな工夫で多様な表現ができることを知る。

授業の内容

用意するもの 先生：「素材と技法ボックス 油彩画」「素材と技法ボックス 日本画」、A5程度の数種類の紙（画用紙、奉書紙など）（人数分）、ストロー（人数分）
 児童：水彩絵の具セット

時間45分	授業の展開	学習指導要領の教科の目標（全学年共通）と指導上の配慮事項	
5分	<p>絵を描く素材や道具についてイメージする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなものがあるか聞く。様々な画材があることを伝える。 	<p>知識及び技能に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画材を手にとって見たり、技法見本を見ることで、絵画には様々な表現があることを、自分の感覚や行為を通して理解する。 ・絵の具を使っていろいろな表現を試すことで、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりする。 <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技法見本を見ることで、作品の表し方などについて考えるとともに、美術作品に対する自分の見方や感じ方を深める。 <p>学びに向かう力、人間性等に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しく、主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組む。 	
15分	<p>油彩画・日本画の画材や技法見本に触れる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素材や道具、描き方の違いを説明。 (※説明シートがあります) <p>活動 素材や道具を手にとって観察したり、見本がどうやって描かれているか、想像する。</p>		 
15分	<p>いろいろな表現を試す</p> <p>活動 絵の具をストローで吹いたり、紙を傾けたりして流す表現やにじませたりする表現をいろいろな紙で試す。</p>		 
10分	片付け・振り返りとまとめ		

ボックスの内容

油彩画：油絵具、顔料、媒材7種、ラピスラズリ、筆16種、ペインティングナイフ、パレット、油彩画の技法見本8種
 日本画：岩絵具、水干絵具、胡粉、にかわ、墨、朱墨、金箔、金泥、藍銅鈷、孔雀石、砂子筒、筆8種、硯、箔ばさみ、たたき筆、日本画の技法見本9種
 説明シート

その他の利用例

◎作品鑑賞と創作活動（90分授業）（「絵画」①か②+「素材と技法」③）

作品鑑賞 → 絵の素材・道具に触れる → 技法見本を見てさまざまな表現を知る → 見本の描き方を試す

※作品が描かれた素材や道具に触れ、技法を試してみることで、鑑賞がより深まるとともに、児童の創造性を広げる授業ができます。

※本プログラムは授業の組み立ての参考にさせていただいたための1例です。

授業の目標

- ・ 版画にはさまざまな種類や技法があることを知る。
- ・ 素材や道具に触れることで、版画の技法に興味を持ち、版画作品や版画制作を身近に感じてもらう。

授業の内容

※版画制作の授業とあわせてご利用いただけます。

時間90分～	授業の展開	学習指導要領の教科の目標（全学年共通）と指導上の配慮事項	
5分	<p>版画のしくみを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 版画の特徴を知る。 <p>版を作れば同じ絵を何枚も作れること。版の作り方にいろいろな種類があることを説明。（※種類についての説明シートがあります）</p>		
15分	<p>素材や道具、技法見本を見る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 版画にはいろいろな技法があり、素材や道具、表現に違いがあることを説明。（※技法の説明シートがあります） <p>活動 素材や道具、技法見本を手にとって観察。それぞれの作品がどうやってできているか、想像してみる。</p>	<p>知識及び技能に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道具に触れ、様々な技法を知ることによって、版画の表現の特徴を自分の感覚や行為を通して理解する。 <p>思考力、判断力、表現力等に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 版画の表現の違いを見ることで、作品に対する自分の見方や感じ方を深める。 	 
70分～	<p>版画作品の制作（木版画、ドライポイントなど）</p>		

ボックスの内容

木版画：彫刻刀、はこび、刷毛、絵の具3色、バレン、バレン中芯4種、見当板、技法見本（版木・作品）

銅版画：ニードル、スクレーパー、パニッシャー、ルーレット、ベルソー、ビュラン、固形グラウンド、ゴムローラー、インク、顔料、技法見本2種（銅版・作品）

シルクスクリーン：オペークインク、クレパス、オペークペン、ダーマトグラフ、バケツスキージ、感光剤、感光乳剤、絵の具、スキージ、技法見本（フィルム・スクリーン・作品）

リトグラフ：ダーマトグラフ、解墨、彩色筆、アラビアゴム、平版ラッカー、チンクタール、インク2種、スポンジ、技法見本（アルミ版・作品）

説明シート